



第117号
2022年12月5日発行

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する

地域の会

～9月定例会・10月定例会 概要～

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして充分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行ふことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

福島第一原子力発電所の廃炉の取組について東京電力ホールディングス(株)から説明を受けました。

「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ

使用済燃料プールからの燃料取り出しは、2014年12月22日に4号機が完了し、2021年2月28日に3号機が完了しました。引き続き、1、2号機の燃料取り出し、1～3号機燃料デブリ(注1)取り出しの開始に向け順次作業を進めています。

(注1)事故により溶け落ちた燃料



情報共有会議を開催しました

11月2日に「情報共有会議」を開催しました。県知事、柏崎市長、刈羽村長、国の代表者、東京電力ホールディングス(株)社長にご出席いただき意見交換を行いました。

詳細は次号118号でご紹介します。

今後の「地域の会」定例会の開催案内 ※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。
第234回定例会

日時：2022年12月7日（水）18:30～20:30
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

新型コロナウイルス感染症対策により、傍聴席は1F実験室に設けます。定員は15名（先着）です。

第235回定例会

日時：2023年1月11日（水）18:30～20:30
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

地域の会の活動はホームページをご覧いただけます。 <https://www.tiikinokai.jp>

9月

2022年 9月7日(水)

231回 定例会

出席者 13名(欠席3名) 場所 柏崎原子力広報センター(研修室)
オブザーバー 新潟県、柏崎市、刈羽村、原子力規制事務所(原子力規制庁)、
地域担当官事務所(資源エネルギー庁)、東京電力HD(株)

フリートーク (視察研修の感想)

4号機大物搬入建
屋の調査状況の説明で
軽微なひび割れとある。

〔前回定例会以降の動きについて〕

動きについて、各オブザーバーから説明を受けて質疑応答を行つた。後半では9月4日、5日に実施された青森県内の「原子燃料サイクル関連施設」への視察研修について、参加委員が報告をし、さらに質問や意見等のフリートークを行つた。



東京電力 越沖地震の際にも引用した学会の指針による。今後、表面の砂を取り除き、それぞれのひび割れ

軽微なひびと報生
があつたが「軽微」と
いう根拠は何か。

東京電力 建屋のひび割れ 4号機大物搬入は、まだ砂が表面に付いている状態のため最終決定の情報ではないが、幅は見えているものは全て1ミリ以下、長さは長いもので直径1.5mの杭の半周くらいの長さが目視できる。また、6号機の杭に接している残置物はセメント改良土。6号機建設時に大型クレーンが走行するために地盤を固めたもの。砂とセメントを混ぜたものを重機で積み重ねて施工した。

幅と長さが分かれば教えてほしい。また、6号機大物搬入建屋フイルタベント基礎の残置物とは改良土か。工法なども分かれば教えてほしい。

意見) むつ市のリサイクル燃料備蓄センター(以下「備蓄センター」)、六ヶ所村の再処理工場など、以前見学した頃に比べて多くの建物ができていることに驚いた。リサイクル燃料貯蔵(株)の備蓄センターもいすれは満杯になる再処理工場が本格操業しなければ次に進まない原子力に足を踏み込んだ

原子燃料サイクル 関連施設（青森県） 視察について委員の感想

東京電力 残置物はすべて撤去し、敷地の砂と同じようなもので埋め戻す。必要な解析等を行い、どのように埋め戻すのか決めていく。

下にあつた残土は撤去するのか。また撤去した後はどのような土を入れるのか。

意見 広大な規模でプロジェクトが進んでいることにすごいという印象を持つた。先送りされてきた核燃料サイクル事業が少しずつ正常化していく過程を目のあたりにした。今のはひつ迫した電力状況の中、国の政策で動かせと、いう指示が出ているが、動かせば使用済核燃料が、出る。それを通常のサイ

意見 福島の事故を教訓に新しいルールが作られるそのガバナンスが効いているのは非常に健全だと感じた。そのための準備が着々と進み、少しゴールが見えていくのかなというところを働いている方々の話から伺い知ることができた。以前視察した頃より工事も進んでおり、施設の方たちの意識の高さや自信を持つて業務に取り組んでいる様子が感じられて心強い印象を持つた。

クルに乗せるためにも日本原燃(株)(以下、原燃)の施設がしっかりと動くことが大前提。柏崎刈羽原発もしっかりと対応し、そのサイクルに乗るよう取り組んでほしい。

十分対応できると聞き安心した。さらに安全対策工事にもしっかりと対応道路の建設現場や構内も整理整頓されて管理が行き届いているという印象を持った。

廃液に注目していた。熱を持つていて隨時水素が発生するため管理が大変なことがわかった。増えすぎないよう管理されているという説明を聞いて安心した。高レベル放射性廃液を安全にした形のガラス固化体でも1時間に1500シーベルトの放射線が放出されるため遠隔操作で保管すると聞いた。再処理の施設全体が予定通りに動けば核燃料サイクルが形になると思つたが、高速増殖炉ができなくなつたことで今後どのように考えていくのか教えてもらいたい。

「フリートーク」

意見 視察の感想を聞き、企業や施設に対しての信頼があがっているように感じた。視察した施設で原子力関係の事故が起きた可能性はあるのか、その際、周辺住民の避難、避難計画、避難訓練のこと

意見 福島の原発ができる時、見学した人たちは素晴らしい原発だという感想を述べられたと思うが数十年経つて今の結果になつてている。そのことに学ぶことをせずに再び核燃料サイクルを夢見て、素晴らしい施設だというのであればもつと厳しいしつペ返しが来るのではないか。私たちは地域の会という公の場所でディスカッションできる機会を持つていながら、国の方針で動いていくものに対してもこれはいいものだという結論をまとめることを非常に不満に思う。



意見 日本の原子力政策の中で発電所は元より、原子燃料サイクル施設などは重要な施設だと再認識、感銘を受けた。全国の発電所の稼働状況と再処理工場の処理能力からみて使用済燃料の受け入れに

意見 備蓄センターは工場で高機能な倉庫、再処理施設は使用済燃料を材料とした巨大な化学工場という印象を持った。今回の視察では核燃料サイクルで出る物質で毒性が強いとされる高レベル放射性

れた1300kmの長い管を通つていて大変危険な工場。放射性物質を溶かした硝酸が吹き出たら大変なことになる、臨界状態にもなる。それを抑えの仕組みは厳密にされてゐると思うがヒューマンエラーの心配もある。こ

意見 工場や機械は壊れることが当たり前と考へてゐるので、原発も軽微な故障が必ず起きると思つてゐる。ただ、このように危険なものを扱う工場であつても、それが当たり前になると危機意識が非常に薄くなる。再処理

意見 再処理工場は税金の無駄遣い、私は賛成しない。使用済核燃料は直接処分するほうがコストはかかるない。原子力政策に携わる人たちは、福島の原発事故を教訓にして今後起きると予想されてい る南海トラフ地震に十分に気付けてもらいたい

10月

2022年10月5日(水)

232回定例会

出席者 13名(欠席3名) 場所 柏崎原子力広報センター(研修室)
 オガバー 新潟県、柏崎市、刈羽村、原子力規制事務所(原子力規制庁)、
 地域担当官事務所(資源エネルギー庁)、東京電力HD(株)

福島第一原子力発電所の廃炉の取組について (東京電力HD(株))

Q

【前回定例会以降の動きについて】

資料には10月に原

第232回定例会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会議時間を短縮して開催した。会議前半は前回定例会以降の動きについて、各オブザーバーから説明を受けて質疑応答を行った。委員は廃炉後半は「福島第一原子力発電所の廃炉の取組」について、東京電力ホールディングスからの説明を受け、質疑応答を行った。委員は廃炉作業についての疑問や風評など、さまざまな質問や意見を述べた。



東京電力

当発電所に最初に納入された際にはOリングとなつておらず、特に不具合もなかつたため、

Q 6・7号機の常用ディーゼル発電非機の油漏れの件で軸封部のOリングをVリングに替えたのはなぜか。
また、保安規定対象記録の未保存の件に関連して、東京電力はどのように考えるのか。

東京電力

新しい工事が未完了だったのでではなく、総点検で数万箇所のチェックを行い、追加で確認されたものである。

Q 7号機の安全対策工事一部未完了を受けた総点検の結果、5件13箇所見つかったということか。

意見

原発の再稼働によるリスクを一身に引き受けるのは新潟県民。再稼働を条件に電力料金の値上げ幅圧縮を関東の住

新潟県

原子力災害対策本部の運営訓練を行う。また、PAZ・UPZの住民避難訓練として今年はバスに加え自家用車を使用した訓練を行う。更に学校等における児童の引き渡し訓練を行うことで、避難計画の実効性を高めたいと考えている。

子力防災訓練を実施するにあるが、何を向上させるための訓練なのか。

Q 保険規定の対象の記録ではなく、東京電力として永年保存する文書はどういうものか。

東京電力

例えば、1号機の設備に関する記録は、施設解体まで残すと

継続使用していた。今回替えたのは、メーカーと相談しV型のものであれば細いワイヤーで締めることができ、コストが合わない場合は民間が負担を負うのか。国はどうに管理している。

資源エネルギー庁

eフューエル※等、カーボンニュートラルの可能性を追求するべきだが、コストが合わない場合は民間が負担を負うのか。国はどうに考えるのか。

※eフューエル：二酸化炭素と水素を合成して製造されるものが合成燃料で、再エネ由来の水素を用いた合成燃料は「eフューエル」とも呼ばれています。(出典…資源エネルギー庁ホームページ)

民・企業に説明することに強い違和感を覚える。

再稼働の問題と電力料金値上げは分離されべき問題だ。福島事故を引き起こした反省があるな

ら、電力料金やエネルギー危機と切り離して安全を追求してもらわなければならない。根本的な反省がなされていない、うわべだけの反省という感を強く持つ。

なか。ゼオライトの土嚢でモックアップとはどのような作業か。

一シングや屋根の補修等さまざまな対策を行い、一日あたり約540立方メートルの流入があつたものが、現在は約130立方メートルまで下がっている。実際に格納容器内にロボットを入れてカメラで見てている状況だが、干渉物等もあり十分な情報は得られていない。

今後も調査を続けて知見を積み重ね、対策へ繋げていきたい。

が壊れて無くなっていると6月に報告があった。コンクリートはかなり鉄筋だけ残った原因は熱ではないかとのことだったが、その後調査は行われたか。

た、国として風評被害対策をどのようにしていくのか併せて教えてもらいたい。



Q

【福島第一原子力発電所の廃炉の取組について質疑応答】

削工具で削れる硬さ
燃料デブリは切

東京電力

陸側遮水壁は十
分機能している
が、どうしても地下水を完
全には止められない。フエ

凍土壁は機能して
いるか。陸側からの
地下水は完全に遮断
されている状況な
か。福島第一は柏崎刈
羽と同じBWRという
ことだが、ペデスタル
のこと等新たに分かつ
てきたことや解決すべ
き課題などがあれば
教えてほしい。

Q

東京電力

燃料デブリの実
際の硬さははつきりわからないところがあるが、脆く崩れやすい状況になつているところもあると考えている。モックアップでは、現場の線量が非常に高いため、その現場を模擬した場所にロボットを入れて、きちんと回収できるか訓練し、改良すべきところは改良するということを行つてている。

Q

1号機のペデスター
ル下部でコンクリート

遮水壁で完全に止められている。かどうかは分からない。建
築の周りから水が地面に滲みて地下水になるところもある。かなり効果は出ている。かともう少し下げていきた

東京電力

地下水は陸側遮
水壁の下を通つて流
入するのか、それとも
遮水壁にすき間があり、そこから入つていいのか。

Q

東京電力

現在、更なる追加調査をするための準備を行つてある。前の調査から干渉物等で思つよう見られないといふ経験やさまざまな情報を基にモックアップ等の準備を行つてある。また、コンクリートが無くなるのは熱が原因ではないかと考えているが、十分に調査を行つた上で最終判断をしていきたい。まだ炉内は十分な情報を得られていない。

Q

A L P S 处理水放出による風評被害対策についてヒアリングを行つてていると思
うが、地元からの具体的な要望やそのために行つた対策があれば教えてほしい。

資源エネルギー庁

国としても基金等を通じて風評被害対策などに対応することを検討している。

た、国として風評被害対策をどのようにしていくのか併せて教えてもらいたい。



